

大阪府保育士会だより

平成23年1月1日

第86号

大阪府社会福祉協議会

保育部会・保育士会

大阪市中央区中寺1-1-54

TEL 06-6762-9001

ほほえみ



地域のお年寄りとおたがーい交流会



昔あそび
教えてよ



毎年1月、地域の老人会や在園児の祖父母の方を招待し正月あそびを一緒に楽しんでいきます。核家族が増えている今、おじいちゃんやおばあちゃんと触れ合う機会を、と始めた行事。



参加者は年々増え昔あそび(福笑い・お手玉・こま)などを教えてもらい交流を深めています。散歩している時、地域の方から声をかけられることも多く、これからも地域とのふれあいを大切にしていきたいと思っています。(堺市 浜寺保育園)

地域をつなぐ ふれあいの大舞台

当園では、地域でひとり暮らしをされているおじいちゃん、おばあちゃんを招待する交流会を開いています。

園児たちが劇や歌・合奏を披露して楽しんでもらうほか、昼食には、お弁当と温かいかず汁を食べていただき喜ばれています。

園児たちも、折り紙メノコなど昔の遊びを教わり興味津々。

この交流会は、園児たちとのふれあいを通して、お年寄りのみなさんが地域の子どものとりの関わりを持つきっかけになればというのがねらい。毎年、たいへん楽しみにされています。

(寝屋川市 アカシヤ保育園)

歌や劇
楽しんでね



子育て支援シリーズ ⑳



“づどいの場”で育児に役立つヒントを

手づくりおもちゃ製作など人気



夕陽が鮮やかに見渡せる羽曳野市の丘陵地に複合施設悲田院がありま

ここでは、高齢施設や障がい児通園施設、児童セン

ターなど0歳から百歳以上の方が利

用し、人と人とのつながりを大切に

しています。15年前、保育園の園庭開放をき

かけに地域に開かれた園を目指し、保健センターが

主に行っていた公民館での子育て支援

を受け継ぎました。その後、保育園併

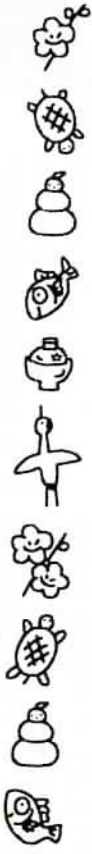
設型の子育て支援センターとなって

少しづつ事業を広げ、一時保育やサ

ーと関わりあうのが苦手



（羽曳野市 四天王寺悲田院保育園）





「子ども・子育て新システム」をめぐって

活発に意見交換

— 第54回全国保育研究大会 —



第54回全国保育研究大会が10月20日から22日までの3日間、和歌山市の和歌山県民文化会館で開催されました。

大会主題の「すべての子どもと子育てに関わりをもつ社会の実現を目指し」をもとに、1500余人が参加。オープニングではマリンバ演奏が披露され大会に華を添えました。

初日は、「子ども・子育て新システム」など国の動向と全国保育協議会の対応について小川益丸氏（全国保育協議会会長）の基調報告が行われました。続いて厚生労働省子ども・子育て支援調整官の牛島聡氏が「すべての子どもへの良質な成育環境を保障し、子どもを大切にすると社会を実現」などを目的とした新システム検討会議の体制とそのスケジュールについて報告し



松長有慶師

ました。

2日目は11の分科会に分かれ行われました。第6分科会では「子育て・子育て支援のネットワーク」と保育所の役割」について茨城県つくば市・石川県・大分県3園から報告があり、その中で、石川県の平和保育園のショウビンゲセンター内の空き店舗を利用した「子育て支援の取り組み」に会場内は驚きに包まれ、多くの質問と熱い意見交換会になりました。

3日目には、松長有慶師（総本山金剛峯寺第412世座主・高野山真言宗管長）が「いのち輝け」と題して講演、心の大切さを考える機会となりました。次期開催地横浜市へバトンを渡し有意義に大会は閉会しました。



保育士の質的レベルアップを目指す

— 連続・保育士研修会 —



前橋 明氏



奥 美佐子氏

保育士研修会が9月6日（月）、大阪社会福祉指導センターで開催されました。

同研修会は3部構成。1部では、大阪府保育士会北大阪プロック常任委員が「食育」をテーマに、「保育に活かせる実践（南太朗の巻）」を発表しました。

2部では、早稲田大学人間科学術院の前橋明教授が「生活環境が与える子どもへの影響、生活リズムの乱れと学力低下の歯止めを考える」をテーマに講演しました。

前橋教授は近年、睡眠不足の子どもが増加している現状を取りあげ、睡眠のリズムが乱れると朝食の欠食、午前中の活動能力の低下、運動量の減少、自律神経の機能低下につながると指摘。自律神経が低下すると、ホルモン分泌リズムが乱れ、体調不良、精神不安定に陥りやすくなり、学力低下、体力低下、不登校、暴力行為などを引き起こすということです。

同教授は「早寝、早起き、朝ご飯、運動」を大切に、「規則正しい生活リズムで毎日過ごせるよう家族で取り組み、子どもの意欲や学力、体力の向上、情緒の安定につなげていきましょう」と訴えました。

3部では、三ツ島保育園、脇田保育園の保育士ユニットによる童謡に合わせ、手袋やペープサートを使った音楽劇が披露され、大変盛り上がりました。

◆ 家族で取り組む規則正しい生活リズムを — 前橋教授 —

◆ 造形表現で子どもの力引き出そう — 奥教授 —

11月17日の保育士研修会では、薬業年金会館を会場に神戸松蔭女子学院大学の奥美佐子教授を講師に招き、参加者172人を集めて開催されました。

第1部では「造形表現から見た子どもの発達と環境」と題して講義。奥教授は「表現活動を通じ、人と関わることで共に理解し合えることを学んでほしい」と述べたうえで、「表現の枠の中で作品の良し悪しだけにとらわれるのではなく、幅広く発達的に捉え、子どもの成長に繋ぐ必要がある」と指摘されました。

第2部は「素材で遊ぶ・イメージで遊ぶ」をテーマに、動く作品づくり・飛び出すカード作り・一枚の画用紙から想像力を動かして制作を行うなどの実技研修。確実に指し通りできる作品仕組みを利用しイメージを膨らませる作品、想像力によって最後まで自分で仕上げる作品の制作に取り組みました。

奥教授は「時間や手間を惜しまず子どもの力を引き出し、子どもたちと深い関わりを持つことが出来る充実した保育に繋がってほしい」と強調しました。

学びシリーズ⑰

「子どものおもちやと遊び」

東京おもちゃ美術館館長

多田 千尋氏

おもちゃは心の栄養素



基調報告する御園会長

情報に振り回されず

子どもの育ちを大切に

— 第44回全国保育士会研究大会 —

第44回全国保育士会研究大会が11月19・20日の両日、三重県総合文化センターで開催されました。

開会式では、永年勤続保育士1261名に感謝状を贈呈。続いて全国保育士会の御園愛子会長が「子ども

の育ちと保育をめぐる動向」

子どもには二つの栄養が必要である。

ひとつは身体にとつての栄養であり、これは当然ながら食物をもってなす。

もう一つは心の栄養である。この栄養素はわらべ歌や民話、絵本、紙芝居、おもちゃなど遊び文化から芸術文化まで、その栄養元の幅は広い。

だからミルクや離乳食、幼児食は「食」の世界だけに必要ではなく、心の栄養領域にも必要となってくる。わらべ歌は言葉の離乳食であり、民話は感性の離乳食である。おもちゃは創造性

について、「子ども・子育て新システム」など基調報告され、そのあと、「子ども・子育て新システムと今後の保育を考える」をテーマにシンポジウムが行われました。

厚生労働省保育指導専門官の丸山裕美子氏、せりり

の離乳食ともいえよう。しかし、心の栄養領域には、食の世界のような栄養士や調理師はいない。国家資格がない以上、

親や保育士、幼稚園教師は有力候補となる。また、忘れてはならないのが祖母や地域のお年寄りの存在だ。

お年寄りは民話やわらべ歌、あやとり、折り紙などの伝承遊びなど、それらの引き出しの多さが求められ、かつてのお年寄りはその使命をきちんと果

たしてきた。子どもの遊びの栄養失調時代には、お年寄りの遊びの知恵と技が必要だ。

また、今やおもちゃは作るものではなくて、買うものだけになってしまっている。クリスマスや誕生日

に「おもちゃ、作って」とおねだりする子どもは皆無に近い。親もおもちゃは買って与えるものだと思います。



ひじり幼稚園の安達護園長、全国保育士会の吉川由基子副会長らがパネラーとして登壇し、大妻女子大学の岡健准教授がコーディネーターを務めました。

子ども、子育て新システムについては、ワーキングチームを結成し検討されています。

記念講演では三重県立相可高等学校、村林新吾教諭が「教育は真剣勝負」と題

して、「教育は真剣勝負」

現代の子どもたちは遊びの楽しさを半分しか享受できない中途半端な状態だといっても良いだろう。

楽しみをお金で買うことばかりに関心がある子どもたちに、自ら遊びを創り出すエネルギーの栄養補給をしたい。さまざまな素材や道具にたっぷりとかかわる体験が乏しい子どもたちに、遊びの食材を料理し、食ら

いて、専門調理師の育成について話しました。

左利きの生徒も少なくないが、日本料理の盛り付けは一流になればなるほど右利きのほうが良いため、包丁の扱いは右で指導しているという。村林さん自身も左利きですが、指がつかない練習したそうです。魔法の道具の包丁は貸し出し

ない。忘れ物をしない。など、その子のために厳しく指導している。今年も息子さんも入学され、先生と生徒で今が幸せ、それをおすそ分けしますと楽しく話されました。

2日目は、9カ所で行われた。来年は鹿児島県で開催予定です。

分科会ごとに実践発表が行われました。来年は鹿児島県で開催予定です。

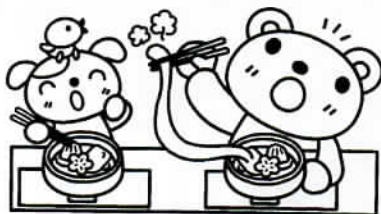
分科会ごとに実践発表が行われました。来年は鹿児島県で開催予定です。

分科会ごとに実践発表が行われました。来年は鹿児島県で開催予定です。

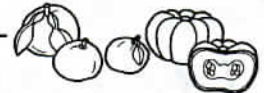
分科会ごとに実践発表が行われました。来年は鹿児島県で開催予定です。

分科会ごとに実践発表が行われました。来年は鹿児島県で開催予定です。

分科会ごとに実践発表が行われました。来年は鹿児島県で開催予定です。



保育のあんな工夫こんな工夫



会話がはずむ「休日の朝ごはん」づくりなど

～親子で楽しむ食育発信～



小さな手が大活躍

さつき保育園では、3色食品群や野菜作りなどさまざまな食育の取り組みを行っています。4年前から園での食育の取り組みを、園児を通し家庭へ発信することにポイントをおいて活動しています。

その中から「写真掲示」と「親子で取り組む休日の朝ごはん」を紹介します。

姉妹園のはたの保育園の畑で栽培中の大根ができたので、5歳児が大根抜きに出かけました。細い大根ですぐ抜けましたが、葉付きの大根は子どもたちにとって珍しかったようです。持ち帰って水洗いし、真っ白になった大根を包丁で慎重に薄く輪切り。その大根の中央に穴を開け、短く切ったストローを刺し、たこ糸をストローに通して干し柿のように長くつないでペランダの物干し竿にぶら下げ

て干しました。

日ごとに大根の水分が抜け小さくなる様子や風が吹くとゆらゆら揺れる様子を毎日観察しました。3週間後には乾燥した切り干し大根になり「厚揚げと切り干し大根の含め煮」として給食に出してきました。市販品より甘味が強く、収穫からできあがりまで手がけたこともありがたいです。食事が進んだようです。

楽しい保育活動

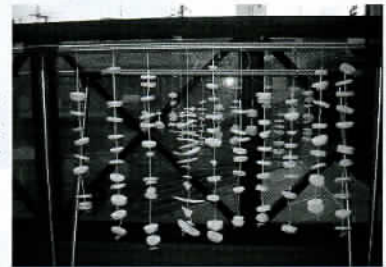
当園では、毎月19日を「たべもの教室の日（食育の日）」に設定、3～5歳が遊戯室に集まり、いろいろな食材について勉強しています。

特に、年長児の給食当番

「たべもの教室」で学ぶ感謝と 「元気もりもり」ラッキー人参 食べる楽しみ

の子どもたちは、その日のメニューを発表、調理室から食材を借りてきて、年中児や年少児に食材の名前を知らせてくれます。実際に手で触れたり、匂いを嗅いでみたり…より一層食材に興味を湧くようです。

また、フードレンジャー



ゆれるゆれる切り干し大根

この大根抜きや切り干し大根作りのようすを写真に記録し掲示したところ、親

（赤レンジャー・黄レンジャー・緑レンジャー）を使い、各食材ごとに分ける作業も子どもたちの役割です。その日の給食に、調理員さんが花型に切った人参（ラッキー人参）を各クラスに6個ずつ入れてくれ、それが入っていた子は「あった！」

と大声でみんなに知らせ大喜び。苦手な人参も、モリモリ！パクリと食べています。今年も年長児がミニ大根やミニ人参、年中児がミニトマトを育て、給食で食べたり、全園児でさつまいもの苗を植え、秋には収穫したさつまいもを使ってスィー



子で写真を見ながら楽しそうに会話をする姿が見られました。

「親子で取り組む休日の朝ごはん」は、休日の朝食の食材を3色食品群に分けてチェック表に色を塗ることで、その日の栄養バランスを親子で意識できるような年間を通して取り組んでいきます。おかげで子どもたちからは「明日は野菜を入れて」とか、朝食作りのそばでトポテトを作りクッキングを楽しみました。

子どもたち自身が栽培・収穫の体験を通して、作ってくれる人たちへの感謝を忘れず、食べることの楽しさが味わえる食育を目指したいと思っています。

（和泉市 すいせん保育園）

「もう少し何か入れたら」などと親にリクエストするようになったようです。

チェック表は回数を重ねるごとにカラフルになり、親子で料理をする機会が増えたという声も多く聞かれるようになりました。まず子どもたちの意識を高め、子どもから保護者へ働きかけることで、親子で楽しみながら取り組める食育をこれからも保育園から発信したいと思っています。

（池田市 さつき保育園）

編集後記



新しい年を迎えられ、元気でご活躍のことと存じます。

皆様の地域では、昔ながらのお正月風景は残っていますか？お正月の遊び、かるた、双六、羽つき、凧あげ、こま廻しなどが、あまり見られなくなったことは、寂しく感じられます。

ほっこりとした幼い頃の思い出が、何時の日にか思い出せるような環境作り、伝統文化を、大切にしながら子どもたちに伝えていきたいものです。

今年もどうぞよろしくお願いたします。